様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

機関番号：24201
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：22360252
研究課題名（和文）　中国都城の系譜とその空間構造の歴史的変容に関する研究
研究課題名（英文）　Study on the spatial structures and their transformation of Chinese capital cities
研究代表者
布野　修司（FUNO　SHUJI）
滋賀県立大学・環境科学部・教授
研究者番号：50107538

研究成果の概要（和文）：
第一に、中国都城の系譜について、既往の研究をまとめ、大きな見取り図を得ることができた。現在、北京に焦点を当てる形で『大元都市―中国都城の空間理念とその変容―』(仮) まとめつつある。『周礼』考工記の都城理念モデルの解釈の幅を確定し、歴代都城がどのようにそのモデルを参照したか明らかにしている。第二に、北京、西安に加えて、開封、南京、杭州について臨地調査を行い、その理念モデルからの逸脱、変異、そして変容過程を具体的に跡付けることができた。第三に、福建の三港市、福州、泉州、彰州についても臨地調査を行い、中原の中国都城の系譜と異なる中国都市のあり方を明らかにすることができた。特に店屋（ショップハウス)、そして騎楼の起源と広がりについて、新たな手掛かりを得ることができた。以上によって、中国都市研究に対して厚みを与えるとともに、アジア都市研究の大きな基礎を築くことになったと考える。

研究成果の概要（英文）：
The study firstly discussed the urban traditions in China based on the previous study and is getting the scope of the research strategy by preparing the book “Dà Yuán City: The Idea, Spatial Formation and Transformation of Chinese Capital Cities”. I have discussed the ideal model of Chinese City written in “ZhouLi” (Classical Books) and clarified how the planners and architects interpreted the text in designing the city form. Baed on the fierld surveys, study revealed the transformation process of Kaifeng, Nanging and Hangzhou, secondarily. Thirdly, the reseacher extended the field to the South of China and carried out the field study on three port cities, Zhang zhou, Fuzhou and Quanzhou. The confirmation of the origin and the distribution of shop house and Qilou is the important outcome of the study. The results of the study contributes the development in the field of urban history of China and strengthen the base of urban studies of Asian cities.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2011 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2012 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
総　計	12,900,000	3,870,000	1,677,000

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学・建築計画・都市計画
キーワード：アジア、都市組織,都市住宅,街区,ショップハウス,植民都市,都城,グリッド

１．研究開始当初の背景

本研究計画は,申請者が 1979 年以降 30 年にわたって実践してきたアジア都市研究をもとにしており,これまで展開してきた多くの研究テーマが関わっている。インドネシア（スラバヤ）のカンポン kampung（都市内集落）についての臨地調査をもとにハウジング計画論を展開した『インドネシアにおける居住環境の変容とその整備手法に関する研究』（学位請求論文（東京大学）,1987 年,日本建築学会学会賞（論文賞）,1991 年）が原点であるが,大きくは都市形成史に関する研究とエコハウス・モデル,エコタウン・モデルの開発に関する研究に分かれる。後者については,実際に「スラバヤ・エコハウス」という実験住宅を建設する機会を得た。

都市形成史研究としては,まず,格子状（グリッド）パターンの都市に焦点を当て（チャクラヌガラ（インドネシア）),続いてヒンドゥー都市（ジャイプル,マドゥライ,ヴァーラーナシー（インド）,バクタプル,パタン（ネパール）など）について臨地調査を展開してきた。さらに,インド・イスラーム都市（ラホール,アーメダバード,デリーなど）を対象とし,両者の差異をテーマとしてきた。また,東アジアの都市（北京,台北）について,都市住居と街区組織をテーマにしてきた。それぞれの地域に,それぞれ一定の都市型住宅が成立してきたことを明らかにしたことは,本研究の大きなベースになっている。また,1997 年から 2001 年にかけて展開した植民都市に関する研究（布野修司編著:『近代世界システムと植民都市』,京都大学学術出版会,2005 年）は,ますます,アジアの諸都市における独自の都市型住宅モデル,居住地モデルの必要性を痛感させることになった。

これまで臨地調査を展開してきた都市は相当数にのぼるが,本研究によってアジア都市研究の集大成を試みたいと考える。ヒンドゥー都市の系譜については,チャクラヌガラ・ジャイプル・マドゥライという 3 都市についての臨地調査をもとに,『曼荼羅都市―ヒンドゥー都市の空間理念とその変容―』（京都大学学術出版会,2006 年,日本都市計画学会論文賞受賞）をまとめることができた。また,カトマンズ盆地について“Stupa & Swastika”（Shuji Funo & M.M.Pant, Kyoto University Press+Singapore National University Press, 2007）を出版する機会を得た。そして,イスラーム都市の系譜については,インド・イスラーム都市としてアーメダバード・ラホール・デリーという 3 都市についての臨地調査をもとに,『ムガル都市--イスラーム都市の空間変容』（布野修司＋山根周共著,京都大学学術出版会,2008 年）をまとめた。ヒンドゥー（インド）都市,イスラーム都市について,もちろん残された課題は少なくないが,アジア都市研究の確固たる基礎を築く上で,欠くことのできないのが,中国都城の系譜に関する同様の臨地調査をもとにした研究である。

日本の都城が中国の都城理念を輸入することによって成立したという経緯から,日本では,中国都城とりわけ長安についての関心は高く,那波利貞の「支那首都計画史上より考察したる唐の長安城」（1930 年）,足立喜六の『長安史蹟の研究』（1933 年）以降,これまで数多くの論考が積み重ねられてきた。しかし,戦後は調査環境の問題もあって,必ずしも進展はない。戦前期からの駒井和愛の論考が『中国都城・渤海研究』としてまとめられるのは 1970 年代半ばを過ぎてからである（1977 年）。歴史研究としての都城研究が再び精力的に行われるようになるのは,岸俊男編『都城の生態』（1987）,楊寛の『中国都城の起源と発展』（1987）以降である。その後,都城に偏してきた視野を拡張し,県城や鎮市も含めて城郭都市一般を対象とした愛宕元の『中国の城郭都市―殷周から明清まで―』,斯波義信の『中国都市史』,ユーラシア全体に視野を拡げる杉山正明の「クビライと大都」,妹尾達彦の『長安の都市計画』などが本研究計画の前提となる。とりわけ,近年展開された妹尾達彦を研究代表者とする「歴史学的視角から分析する東アジアの都市問題と環境問題」（基盤研究（S）:2004－2008 年）は出発点となる。

現在も変わらないが、アジアの諸都市についての欧米における研究は極めて薄い。アジアの数多くのユニークな都市の空間構成を明らかにすること自体に大きな意義があり、さらにアジア都市研究の体系化への道筋を示すことが本研究の大きな役割であると考えた。我が国におけるアジア都市研究の基礎を固めるとともに、その水準を世界に示すことが大きなねらいとして意識されていた。

２．研究の目的

本研究計画は,アジアにおける都市の系譜を大きな視野に置き,中国「都城」の系譜に位置づけられる諸都市（西安・洛陽・開封・北京,杭州・南京,ハノイ・フエ,台北,慶州・ソウル他）に焦点を当てて,その空間構造の歴史的変容を臨地調査を基に明らかにし,住居および居住地の一定の型の形成とその変容について体系的に明らかにすることを目的にしている。アジアの大都市の多くは,深刻な都市問題,居住問題を抱えており,また,急速にその歴史的特性を失いつつある。それぞれの都市において歴史的な街並みや街区をどう維持し,保全していくかが問われる一方,新たな都市住宅や居住地のモデルが求められつつある。

本研究の大きな目的は,ますますその固有性を失いつつあるアジア諸都市の都市居住環境のあり方の今後について,その指針を明らかにすることである。

３．研究の方法

アジア（ユーラシア）を広く見渡すとき,都城の理念を持ち,またそれを書物に表す地域とそうでない地域がある。また,はっきりと都城理念をもつ地域もその理念を産んだ核心地域とその周辺地域にわけることができる。本研究計画では,大きくはイスラーム都市の系譜,ヒンドゥー都市の系譜,中国都市の系譜を区別する。中国都市の系譜としては,まず,王権の所在地としての首都あるいは国都である都城が対象となる。具体的には,中国公認の古都に限定すると,その時間的変遷は,殷墟（安陽）→咸陽→長安←→洛陽→開封→杭州→北京←→南京ということになる。しかし,本研究が広く視野に置くのは,いわゆる歴史的な都城のみではない。「中華」あるいは「漢民族」の理念化する「中国都城」とは異なる都市の系譜が少なくとも「南方」に存在してきたことは明らかである。また,店屋の形式など華人の海外活動とともに東南アジアなどへ移植されていっている。一方,中国都城の理念は,朝鮮半島を通じて日本へ,また,ヴェトナムへ輸出もされている。本研究では,中国都城の理念を産んだ「中国」「中華」いわゆる中原と,その周縁地域,さらに周辺諸国を区別して,　大きく対象地域とし,、臨地対象都市を選定した。

本研究を,一貫（一環）するものとしてまとめあげるために,以下のA～Cを基礎作業とした。

A　アジアの都城そして中国都城に関する文献・資料の収集とリストの作成：文献収集は,各年度継続して行うが,現地での収集とともに,欧米における研究動向も包括的に把握したい。アウトプットとして,「アジア都市研究文献リスト・解題」をまとめ,今後の研究展開のために供したい。

B　地図資料のインヴェントリーの作成：文献資料の収集と平行して,地図資料については集中的に収集したい。北京内城における井戸や諸施設の分布図のように歴史的資料は可能な限り図化するなど,これまでの蓄積を加えて,一般に利用可能な形（CD-Rom 等）にまとめたい。

C　街区組織図の作成：これまで調査してきた都市を含めて,また本研究計画で臨地調査を行う都市を中心として,各都市について共通のフォーマット（GIS）で比較可能なかたちにまとめたい。建物の用途,階数,構造,・・・など調査項目に基づく施設分布図,住居類型分布図などが基本となる（例示：北京朝陽門地区宅地の変化,街路の変遷）。A,Bによって得られる資料から作製可能な都市も可能な限り含めたい。

また,最終的なまとめのために,また,重点調査都市の位置づけを明確にするために,以下のD～Eの作業を平行して行う。

D　アジア各都市の街区組織と都市住宅の類型化：前近代については,上述のように,大きくイスラーム都市の系譜と中国・インド都城の系譜に分けることができるが,街区組織と都市住宅の類型について,もう少し細かな検討が必要である。街区組織の名称に関わる語彙の分布を明らかにすることにおいて,ある程度のフレームを得ることができるという見通しがある。最終的に,アジア全体について類型と分布図を示したい。

E　ショップハウスの類型とその分布図の作製:Dのうち,ショップハウスについては東南アジアについてはかなりのデータの蓄積がある。文献による補足も合わせて,最終的に,今後の研究を加速するような分布図が作成可能である。

臨地調査の対象都市は、A～Eの作業から、典型的な都市を選ぶことになるが、研究計画としては、各研究年度、重点調査と広域調査（文献調査を含む）を組み合わせて行う。

４．研究成果

以下、年度別に記したい。

平成22年度

第一年度として、北京、天津、西安で資料収集するとともに、南京、杭州、開封で臨地調査を行った。また、洛陽において、臨地調査の対象地区に検討したが、相応しい地区がなく、臨地調査を断念することとした。

北京については、朝陽門地区についての、西安については回民居住区についての詳細調査があり、補足調査にとどめた。また、開封についても前年までの調査を引き継ぐ形をとったが、調査対象地区を拡大し、さらに詳細調査を行った。南京、杭州については、予備調査にとどまったが、咸陽→長安←→洛陽→開封→杭州→北京←→南京の距離を実感し、中国都城の移動についての概要を身をもって体験したことになった。

平成23年度

臨地調査については、前年度に引き続いて南京、杭州を中心に行う予定であったが、南京において調査環境が整わず、中国南部にウエイトを置くこととした。調査は,北京および西安と同様,都市の形成過程,空間構造,各種施設の分布,典型的街区の構成,街路体系,住居類型とその変容を中心に行った。中国南部については、新たに福州を加え、詳細調査を行った。さらに、泉州、**漳州について補足調査を行った。泉州については、2 本の論文を執筆し，現在の段階で以下にあげる論文が採用となった。**開封については初年度に行っ

た調査を整理、補足し、ほぼまとめることができた。現在審査論文を執筆中である。洛陽については、都市組織の連続性という意味で、安陽と同様、歴史的な都市組織のあり方に焦点を絞ることとした。この間、並行して、歴史民俗博物館の特別研究プロジェクト「アジアの都市と建築文化に関する比較研究」に参加してきたが、まとめとなる総括国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「アジアの都市―インド・中国・日本―」において、「「転輪聖王」の王都　―曼荼羅都市の系譜―」と題して発表した。また、最終論文として「アジアにおける都市的集住形式の起源とその変容－都市組織と住居類型－」(2012 年度刊行予定）を執筆した。いずれも本研究の骨格に関わる論文である。

平成 24 年度

臨地調査については、東南大学の協力を得ることができ､前年度に行うことができなかった南京について実施した。また、杭州については調査対象としての歴史的街区の改変が大きいことから実施を断念し、当初予定にしていなかったが、四川省成都について臨地調査を実施した。また、店屋、騎楼の起源に関する関心から，四川省のアーケードをもつ集落についての調査を行った。具体的な調査内容は,北京および西安と同様,都市の形成過程,空間構造,各種施設の分布,典型的街区の構成,街路体系,住居類型とその変容が中心である。中国南部については、前年度に引き続いて福州および漳州について補足調査を行った。福州上下杭社区について、また泉州鯉城区、開封旧内城泉州についてそれぞれ 1 本の論文を執筆,採用された。また、韓国光州で開かれた国際会議（ISAIA）で関連論文を 3 本発表した。さらに､開封、福州、彰州について論文を投稿、査読中であり、ほぼ予定通りに研究成果を公表しつつある。

この間並行して参加してきた､歴史民俗博物館の特別研究プロジェクト「アジアの都市と建築文化に関する比較研究」の成果として,論文「「転輪聖王」の王都　―曼荼羅都市の系譜―」を執筆、国立歴史民俗博物館・玉井哲雄編『アジアからみる日本都市史』(山川出版社，2013 年 3 月）として出版することができた。執筆論文は「アジアにおける都市的集住形式の起源とその変容－都市組織と住居類型－」2013 年度に刊行される予定である。いずれも本研究の骨格に関わる論文である。総まとめとして、以下の作業は継続した。

A　アジアの都城そして中国都城に関する文献・資料の収集とリストの作成､B　地図資料のインヴェントリーの作成､C　街区組織図の作成，D　アジア各都市の街区組織と都市住宅の類型化（未完），E　ショップハウスの類型とその分布図の作製

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

川井操,布野修司,山根周：西安旧城・回族居住地区の棲み分けの特性に関する考察,日本建築学会計画系論文集,第 75 巻，第 651 号,pp1097-1102,2010 年 5 月

趙冲，布野修司，川井　操,「泉州鯉城区（福建省）の住居類型とその分布に関する考察」，日本建築学会計画系論文集，77 巻,No.669，pp2033-2040，2011 年 11 月

趙冲,布野修司,川井　操,山田香波,張鷹,「福州上下杭社区（福建省）の住居類型とその変容に関する考察 」 日本建築学会計画系論文集，77 巻,No.682，pp2689-2695，2012 年 12 月

趙冲、布野修司、川井操「泉州鯉城区（福建省）の住居の平面構成とその変容に関する考察」日本建築学会計画系論文集、pp2499-2506、第 77 巻、NO.681、2012.11

趙冲,布野修司,川井　操,山田香波,張鷹,「福州上下杭社区（福建省）の住居類型とその変容に関する考察」 日本建築学会計画系論文集，77 巻,No.682，pp2689-2695，2012 年 12 月

趙冲，于航，布野修司，川井操「開封旧内城の空間構成とその変容に関する考察―文殊寺・学院門社区の都市組織―」，日本建築学会計画系論文集,第 78 巻,No.685,pp519-526,2013 年 3 月

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 17 件）

于航・ 川井操・ 布野修司 ，開封旧城・学院門社区の空間構成に関する考察 その 1 ~施設分布と街路体系~，日本建築学会 2010 年度大会（北陸）学術講演会，富山大学，2010 年 9 月 9 日～11 日

川井操・ 于航 ・布野修司 ，開封旧城・学院門社区の空間構成に関する考察 その 2 ~住居類型とその変容~，日本建築学会 2010 年度大会（北陸）学術講演会，富山大学，2010 年 9 月 9 日～11 日

Chong ZHAO, Shuji Funo : D-36 Considerations on Distribution of House Types of Licheng District in the city of Quanzhou, Fujian, Proceedings of the 8th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia (ISAIA), Kitakyushu-City, 9ｔｈ－１２ｔｈ, Nov. 2010

布野修司，趙冲,泉州鯉城区（福建）の住居類型に関する考察，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，早稲田大学，2011 年 8 月 23 日～25 日

布野修司，于航，開封旧城・文殊寺社区空間

構成の施設分布に関する考察，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，早稲田大学，2011 年 8 月 23 日～25 日
布野修司（2011），榎本雅司他，杭州市における姚園寺巷社区の空間構成に関する考察　その 1　街路構成と施設分布，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，早稲田大学，2011 年 8 月 23 日～25 日
布野修司，山田香波他，福建・漳州市における薌城区の空間構成に関する研究　その 1 街路体系と施設分布，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，早稲田大学，2011 年 8 月 23 日～25 日
布野修司，河野菜津美，福建・漳州市における薌城区の空間構成に関する研究　その 2 住居類型とその分布，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，早稲田大学，2011 年 8 月 23 日～25 日
布野修司，櫻井藍他，福州・朱紫坊（福建）の空間構成に関する研究　街路体系および施設分布，日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集，早稲田大学，2011 年 8 月 23 日～25 日
Chong Zhao, Shuji Funo ‘Considerations on Transformation of House Plan of Licheng District (Quanzhou, Fujian)’: The 9th International Symposium On Architectural Interchanges in Asia, Kwngju, Korea, 2012.10.22-25
Natsumi Kono, Shuji Funo ‘A Consideration on Spatial Formation of Xiangcheng District in Zhangzhou City, Fujian:’ The 9th International Symposium On Architectural Interchanges in Asia, Kwngju, Korea, 2012.10.22-25
Kanami Yamada, Shuji Funo ‘Considerations on Spatial Formation and Transformation of House Types in Shangxiahang Neighbourhood Area(Fuzhou, Fujian)’: The 9th International Symposium On Architectural Interchanges in Asia, Kwngju, Korea, 2012.10.22-25
趙冲、布野修司「泉州鯉城区（福建省）の住居の平面構成とその変容に関する考察」日本建築学会学術講演梗概集（東海）2012 年.E-2 分冊、建築計画Ⅱ、pp1129-1130、2012.9
大日方覚、山田香波、趙冲、布野修司「福州上下杭社区（福建省）の空間構成に関する考察　その 1　―社区構成と施設分布―」日本建築学会学術講演梗概集（東海）2012 年.E-2 分冊、建築計画Ⅱ、pp1125-1126、2012.9
小寺磨理子、山田香波、趙冲、布野修司「福州上下杭社区（福建省）の空間構成に関する考察　その 2　―住居類型とその分布―」日本建築学会学術講演梗概集（東海）2012 年.E-2 分冊、建築計画Ⅱ、pp1127-1128、2012.9
河野菜津美、趙冲、布野修司「福建・漳州市における薌城区の空間構成に関する研究　その 3：住居類型の空間構成とその変容」日本建築学会学術講演梗概集（東海）2012 年.E-2 分冊、建築計画Ⅱ、pp1131-1132、2012.9
山田香波、趙冲、布野修司「福州三坊七巷（福建省）の住居類型に関する考察」日本建築学会学術講演梗概集（東海）2012 年.E-2 分冊、建築計画Ⅱ、pp1133-1134、2012.9

〔図書〕（計 4 件）
布野修司＋韓三建＋朴重信＋趙聖民『韓国近代都市景観の形成―日本人移住漁村と鉄道町―』京都大学学術出版会，2010 年 5 月
布野修司・ヒメネス・ベルデホ、ホアン・ラモン『グリッド都市―スペイン植民都市の起源、形成、変容、転生』京都大学学術推進委員会、2013 年 2 月
布野修司「住居―地域の生態系にもとづく多様な形態―」，村井吉敬・佐伯奈津子・間瀬朋子編『現代インドネシアを知るための 60 章』明石書店、2013 年 1 月
布野修司「転輪聖王」の王都―曼荼羅都市の系譜」、歴史民俗博物館・玉井哲雄編『アジアからみる日本都市史』山川出版社、2013 年 3 月

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
ホームページ等
www.ses.usp.ac.jp./lab/funo

６．研究組織
(1)研究代表者
布野　修司（FUNO　SHUJI）
滋賀県立大学・環境科学部・教授
研究者番号：50107538